

浪江町



The Grand Design

for Landscape Architecture around Namiie Station



浪江駅周辺 グランドデザイン基本計画

2022.03

浪江町長

吉田 栄光
Eiko Yoshida

浪江駅周辺を「皆さまが希望の持てる世界に誇れるような街並み」にします。

そして、そのにぎわいを町全体に波及させて、持続可能なまちづくりに取り組みます。

この計画は、皆さまが活躍する舞台づくりです。住む、働く、訪れる、浪江町の主役は皆さまです。

いっしょにまちづくりをしましょう。



希望

建築家

隈 研吾
Kengo Kuma

駅から始まり、その周辺の交流・商業施設や共同住宅までを総合的にデザインできるのは世界的に見ても貴重なチャンスです。

浪江町の自然や文化と共にこのチャンスを活かし、人々がひとつの大きな屋根でつながり、そして世界に発信していくような街をつくっていきます。

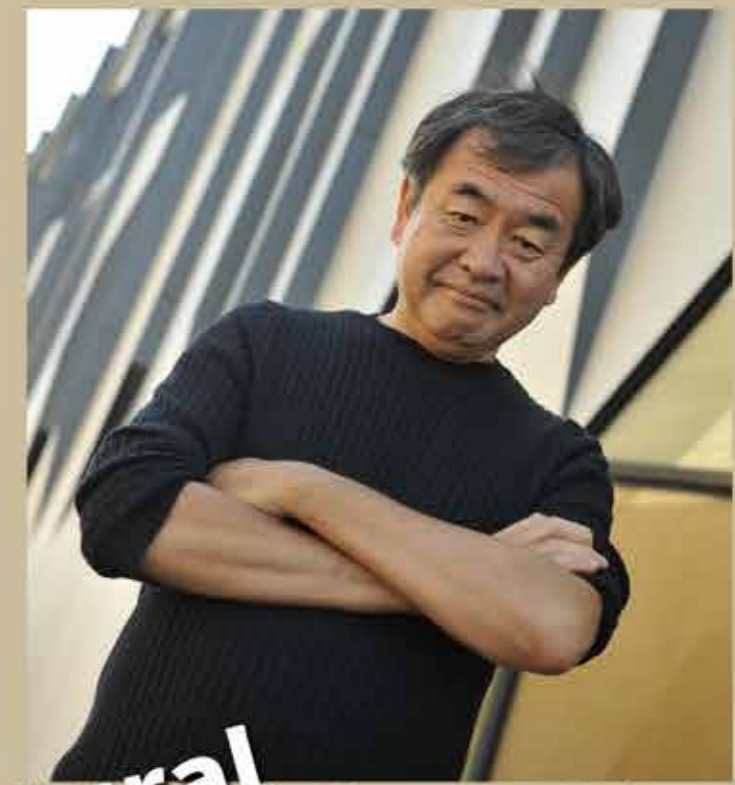


Photo c J.C. Carbonne

Architectural Design

東京芸術大学特任教授

伊東 順二
Junji Ito

11年前、防護服を着てなんとかかかつての町の姿を映像に残そうと誰もいない街を巡った時は、今このように復興に関われるとは想像もしていませんでしたが、いつかこの記録で貢献したいと強く思っていました。

当時の駅周辺が新しいデザインに生まれ変わることは素晴らしいことで、そこに残っていた思い出をぜひ形にしたいと思っています。



City Planning

住友商事株式会社
EII企画戦略部長

北島 誠二
Seiji Kitajima

浪江町の皆さんと共に、あたらしい浪江の姿をデザインしていく貴重な機会を頂きました。

水素や再生可能エネルギーをエリア環境と調和させながら、新たなチャレンジの場を創出し、浪江町に根差した新しいライフスタイルを世界に発信できるまちづくりに貢献していきます。



Renewable Energy Innovations

はじめに

Preface

この計画は、令和3年3月に策定した「浪江駅周辺整備計画」に基づいて整備を行う建物や街並みのデザインを定めたものです。

「浪江駅周辺整備計画」の計画期間は、令和3年度から令和8年度までの6年間です。

※本計画書に示した図面、イメージパース等は、令和4年3月時点のデザイン案です。

目次

Table of Contents



1. 人のつながり	8	1-1 配置計画		2-1 木材活用		3-1 連続する緑空間	
2. エネルギーと 環境のつながり	10	平面計画	16	建築物の構造	38	デザインコンセプト	52
3. 自然や文化のつながり	12	動線計画	18	建築物の内外装材	40	ゾーニング	54
		建築物の用途と構成	20	2-2 再生可能エネルギー		植栽計画	62
		1-2 「なみえルーフ」		RE100	42	樹種選定	64
		大屋根	22	水素利用	44	3-2 まちをつくる要素	
		屋根伏図	26	太陽光発電	46	舗装材	66
		展望テラス	28	防災機能	48	公共サイン	68
		展開図	30			ストリートファニチャー	70
		1-3 モビリティ				モニュメント	72
		東西自由通路	32			(資料) 駅周辺整備計画	74
		交通結節広場	34			スケジュール案	
						(資料) グランドデザイン	76
						検討の経緯	

序章 コンセプト

「なみえルーフ」が生み出す、人のつながり

駅から商業施設まで、ひと続きにつながる**アップダウンのあるダイナミックな大屋根が町にぎわいを生み出します**。これまで住んでいた方も、そしてこれから住んでみたい方も、大屋根「なみえルーフ」に集まり、人と人のつながりをつくります。

様々なイベントを行うことのできる芝生広場のまわりと、交通機能が集まる東西のロータリーを囲うように連続する屋根が架かり、駅周辺エリア全体に一体感が生まれます。

開いた円形状の屋根は、求心力と発信力を併せ持つ、シンボリックなデザインです。



木材や再生可能エネルギーを活かした環境モデル

木材や水素、再生可能エネルギーを環境と調和させ、浪江町に根差したライフスタイルとして世界に発信できる、未来のまちづくりを進めていきます。

建物の外装と内装の両方に木材をふんだんに用いて、暖かみのある建物にするとともに、「CO₂を吸収しながら成長し、吸い込んだCO₂と共に建材として100年生き続ける」木材の特徴を生かし、環境負荷の低減にも貢献します。

また、水素ステーションを起点としたエネルギー供給により、浪江産水素（FH2R産グリーン水素(*1)）の地産地消を実現します。加えて、屋根や壁面には、周辺環境と調和するようデザインされた太陽光発電パネルを用いて、駅前エリアにおけるRE100(*2)のライフスタイルを実現していきます。



福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）
引用：<https://www.nedo.go.jp/>



福島高度集成材製造センター（FLAM）
引用：<https://www.fipo.or.jp/>

*1：グリーン水素とは、再生可能エネルギー由来の電気で水を分解することにより生産される水素。水素は使用時にCO₂を排出しない上に、電気分解に必要な電力もクリーンなため、製造プロセスにおいてもCO₂が発生しない。

*2：RE100とは「Renewable Energy 100%」の略称で、使用電力を100%再生可能エネルギー（グリーン水素を含む）で調達することを指す。



浪江ならではの自然の特徴や素材の活用

駅前から新町通りまで連続する緑空間に、**山と海**の両方の良さを持つ浪江町の特徴を活かします。また緑空間の舗装材には、震災で廃材となってしまった屋根瓦や大堀相馬焼をアップサイクル*して利用し、浪江町の記憶を継承します。

ストリートファニチャや案内サイン、ポラードといった人の近くにある要素には可能な限り浪江産集成材や福島県産の木材を利用します。**これまでの浪江の特徴や素材を最大限に活かして、これからの浪江につなぎます。**

*アップサイクル：本来であれば捨てられてしまうような物に、デザインやアイデアといった新たな付加価値を持たせることで、別の新しい製品にアップグレードして生まれ変わらせること。



大堀相馬焼

引用：https://www.somayaki.or.jp/



第1章 人のつながり

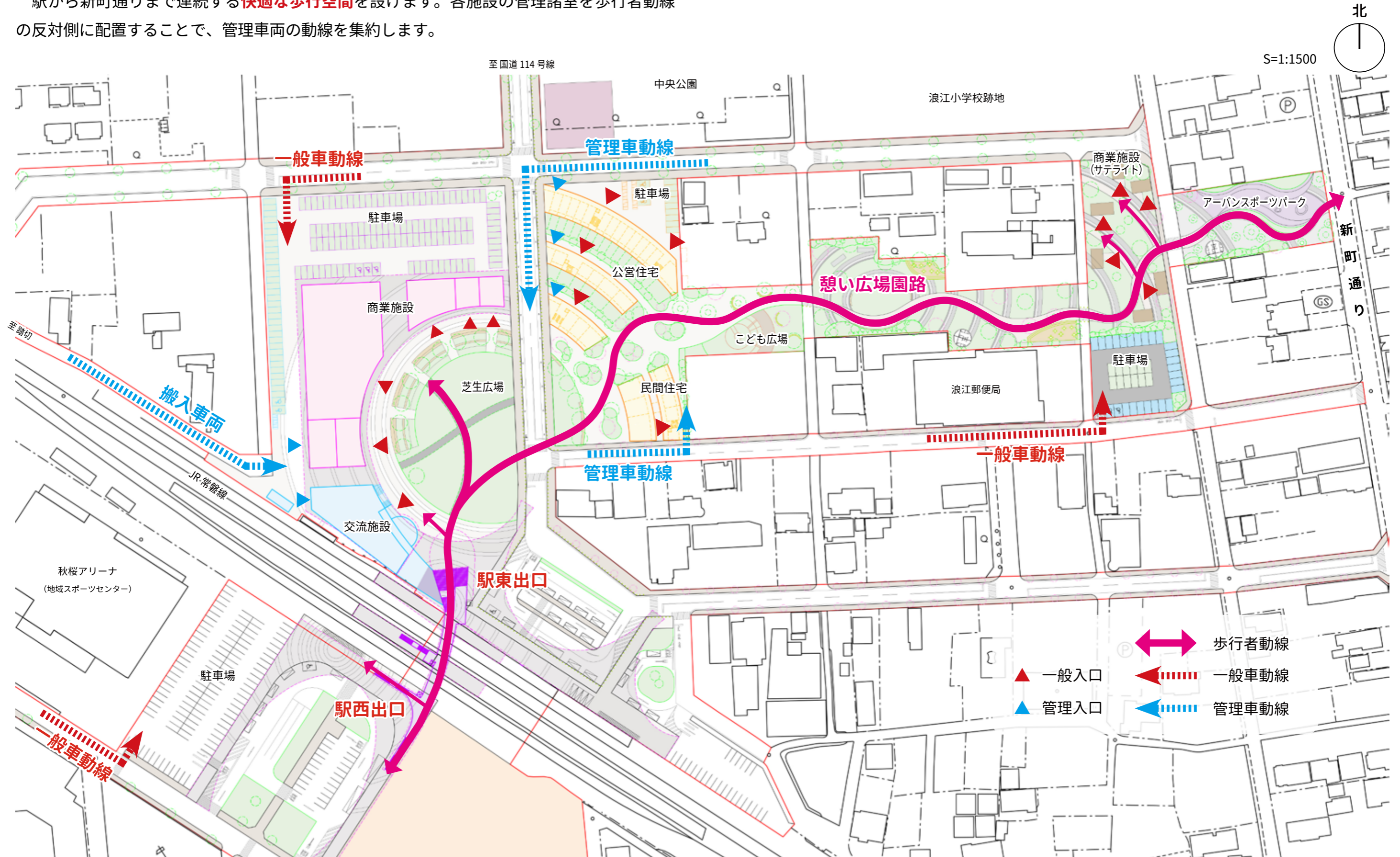
駅から新町通りまでの人の流れをつくります

大きな一つの屋根に沿った人の流れは、緑空間、そして新町通りまでつながります。それぞれの機能は分断されることなく、ゆるやかに連続します。

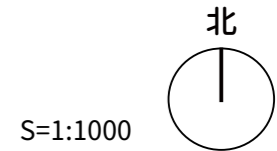


歩車分離による連続した歩行者動線

駅から新町通りまで連続する**快適な歩行空間**を設けます。各施設の管理諸室を歩行者動線の反対側に配置することで、管理車両の動線を集約します。



円形の芝生広場が各建物をつなぎます



公営・民間住宅

延床面積
約 7,700 m²

2F～：住宅エリア

1F：集会スペースと住宅エリア

広場に面した手前の住居棟は、プライバシーに配慮して1階は集会スペースとします。周囲には木々が立ち並び、駅前でありながら落ち着いた住環境となります。



商業施設

約 2,600 m²

1F：スーパーマーケット（キーテナント）
物品販売店舗、飲食店など

広場を取り囲むように店舗が並びます。ガラス張りの壁が景色を取り込み、屋内にいても開放感が生まれます。店内は明るく、外からも店内のにぎわいが見えます。



交流施設

約 1,600 m²

2F：コワーキングスペース、打ち合わせブース

1F：カフェスペース、待合スペース

2階の張り出したワークスペースから芝生広場が一望できます。1階は、カフェでくつろぐ方や電車を待つ方の交流が生まれます。



人と町のつながりを生み出す「なみえルーフ」

駅から商業施設まで、ひと続きにつながる**アップダウンのあるダイナミックな大屋根**「なみえルーフ」が町に**にぎわいを生み出します**。展望テラスや交流施設の一部が芝生広場に張り出すことで前後にも変化が生まれ、広場にさらにダイナミックな印象を与えます。



光がつながる「なみえルーフ」

主に間接光を使って夜の駅前空間を幻想的に照らし出します。

照らされた建物外装の木製パネルと「なみえルーフ」が、**光の連続**を生み出します。ポラードには照明が内蔵され、歩行者を安全に誘導します。広場のメインツリーを下から照らして、反射光や拡散光により明るさを増幅します。

駅周辺は**夕暮れや夜間にも安心して立ち寄りたくなるエリア**になります。



人々を引き込む、開いた円形の屋根の連なり

大屋根が連なる駅前空間は、誰に対しても開かれていて訪れやすく、外から見ると一体感とにぎわいが認識されやすくなります。色や素材が異なる屋根を組み合わせることで、一体感の中にも多様な表情を生み出します。

北
S=1:1500

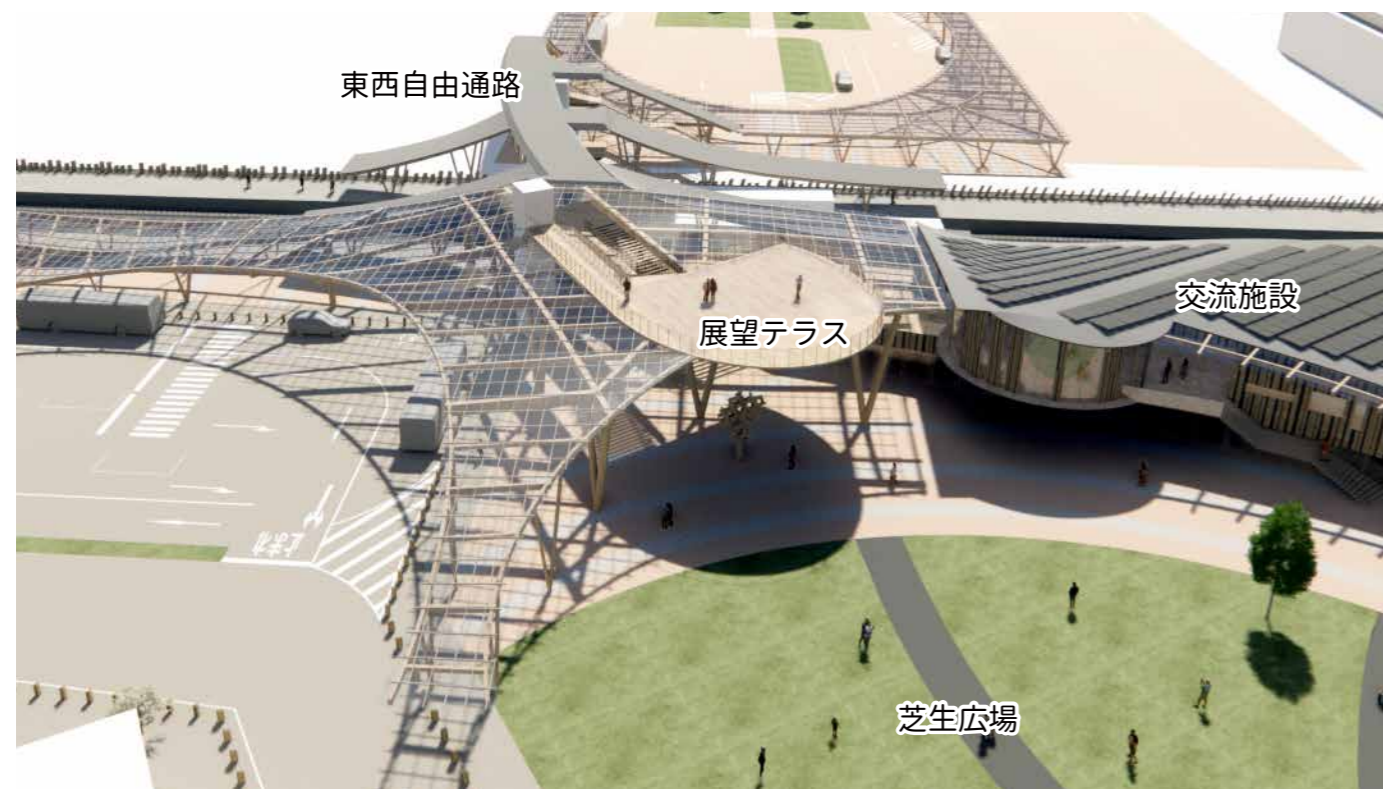


新しい浪江を見渡せる展望テラス

初めて浪江町を訪れた方の撮影スポットになり、地元の方にとっても何度も行きたくなるような展望テラスを「なみえルーフ」の上につくります。

芝生広場に面した大階段や東西自由通路からアクセスしやすい位置にあります。また、地上からエレベーターで直接アクセスすることが可能です。

■ 展望テラス鳥瞰図

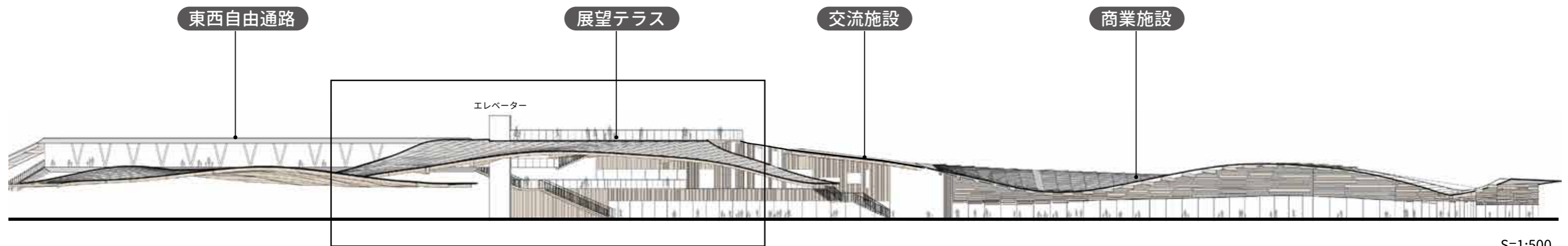
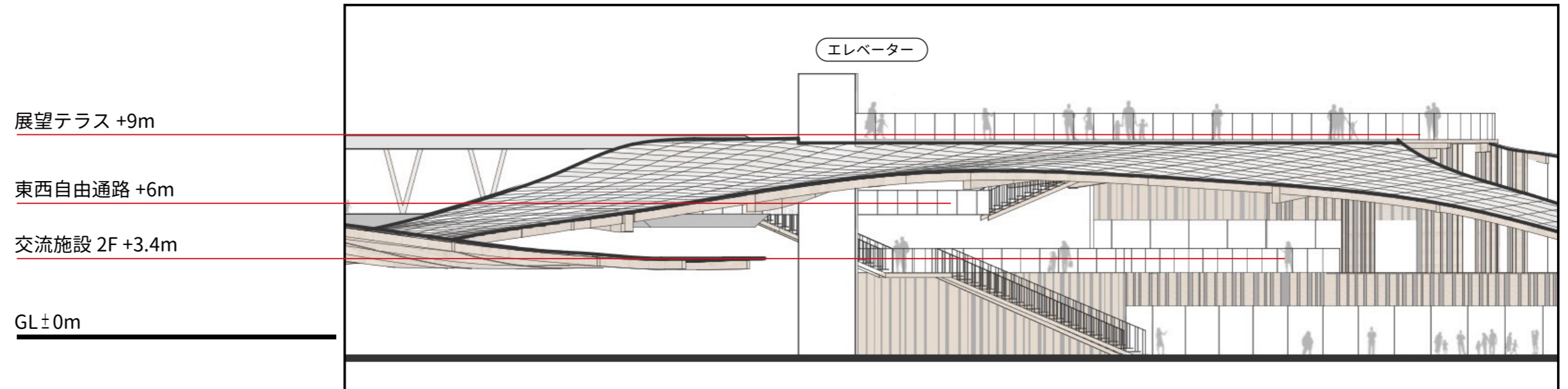


■ 展望テラスからの眺め



にぎわいを生み出すアップダウンを持った「なみえルーフ」

「なみえルーフ」は人々のにぎわいを表現した曲線を描いています。芝生広場に立つとアップダウンした屋根のラインのパノラマを楽しめます。建物ごとにスリットで分節されながらも、一つの連続的な屋根としてつながります。



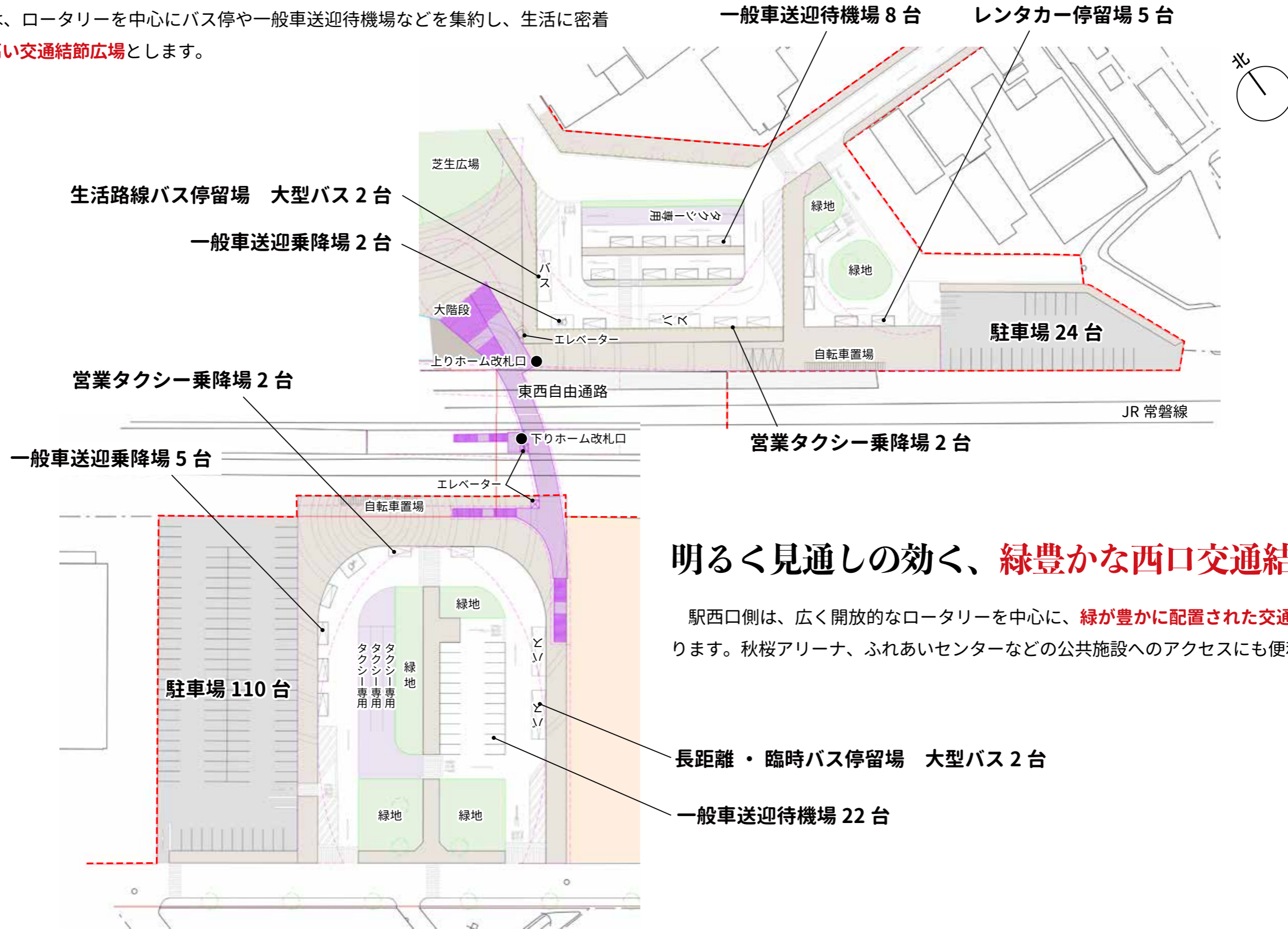
駅の東西を自由に行き来できる自由通路

改札の外側に位置する東西自由通路は、どなたでも利用できます。自由通路の屋根は交流施設や商業施設と同じで鋼板屋根とします。壁はガラスで眺望が良く、柱は「なみえルーフ」と統一感のあるV字型の柱とします。



ロータリーを中心に集約された東口交通結節広場

駅東口側には、ロータリーを中心にバス停や一般車送迎機場などを集約し、生活に密着した**利便性の高い交通結節広場**とします。



明るく見通しの効く、緑豊かな西口交通結節広場

駅西口側は、広く開放的なロータリーを中心に、**緑が豊かに配置された交通結節広場**になります。秋桜アリーナ、ふれあいセンターなどの公共施設へのアクセスにも便利です。

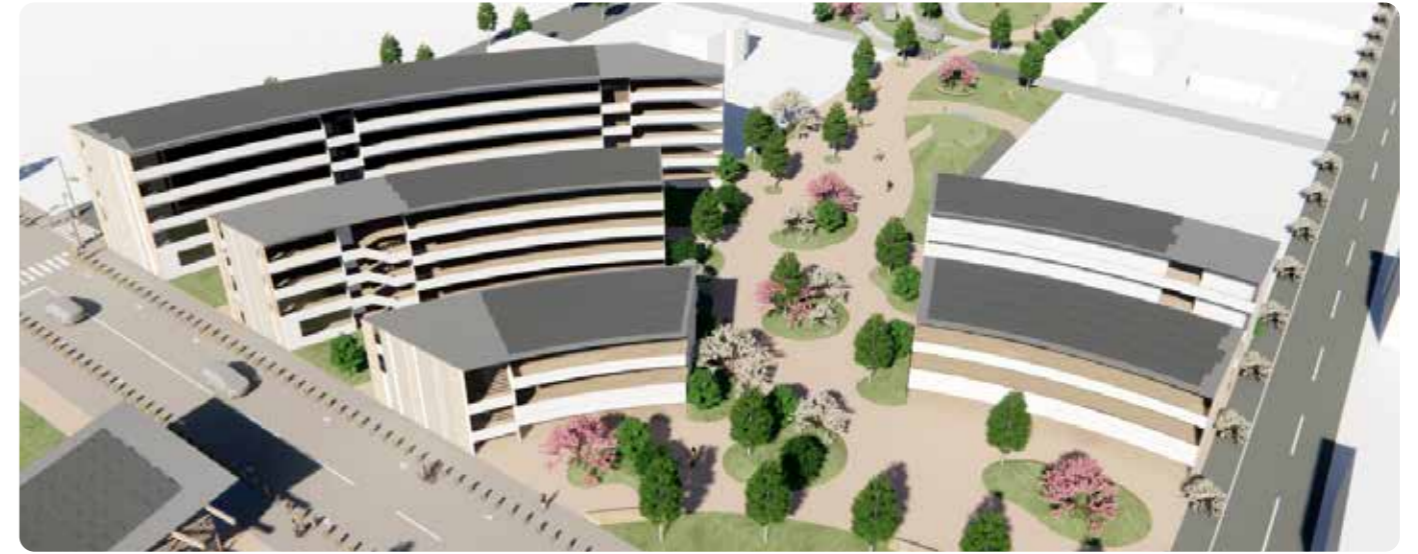
- 長距離・臨時バス停留場 大型バス 2台
- 一般車送迎機場 22台

第2章 エネルギーと環境のつながり

建物に応じた適材適所の構造体としての木材活用

■ 公営住宅・民間住宅：在来軸組工法＋集成材

- 公営住宅と民間住宅の主体構造を木造とし、建物の軽量化による基礎コストの低減及び工期の短縮を図ります。なお、5階建て公営住宅は、経済合理性の観点から、最上階から数えて4階分は1時間耐火構造による木造とし、最下階をRC造とします。
- 一般製材の歩留まりを考慮し、尺寸モジュールによる在来軸組工法を採用することで躯体コストの低減を図ります。



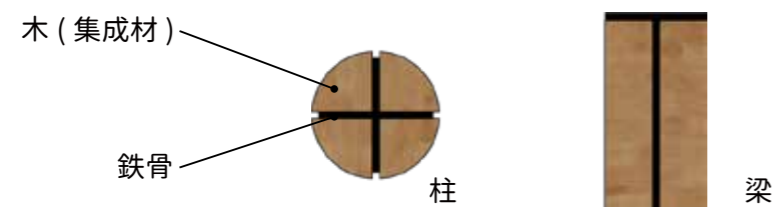
■ 交流施設・商業施設：在来軸組工法＋集成材

- 交流施設・商業施設は、主体構造を木造とし、建物の軽量化による基礎コストの低減及び工期の短縮を図ります。
- 燃え代設計により部分的に木部をあらわし、木質空間を創出します。
- 屋根のロングスパン部分は張弦梁とし、軽快な空間を実現します。
- 一般製材の歩留まりを考慮し、尺寸モジュールによる在来軸組工法を採用することで躯体コストの低減を図ります。必要スパンに応じて、集成材を組み合わせます。



■ 「なみえルーフ」・東西自由通路：木＋鉄骨のハイブリット構造

- 大屋根と自由通路のV字柱は鉄骨造とし、地震時の耐震性と変形の抑制及び耐久性に配慮します。鉄骨を木で挟んで周囲と調和のとれたデザインとします。
- 群衆荷重を支持するロングスパン梁は鉄骨を木の集成材で挟み込んだハイブリット構造を採用し、座屈補剛効果と木質空間を創出します。



県産木材を最大限活用した内外装

県産木材を最大限活用し、建物の外装をつくります。統一感がありながらも、縦貼りと横貼りを建物に応じて混ぜたり、鉄骨とハイブリットとしたりすることで**多様性に富んだ外装**とします。

木材は**液体ガラスコーティング**を施すことで水分の侵入を阻止します。ガラスコーティングは木の質感を損なうことなく木材を保護し、伸縮や反りを抑え、さらに難燃性、防腐・防蟻性能も向上します。

■ 交流施設外壁



縦貼り木羽目板

■ 商業施設外壁



横貼り木羽目板

■ 「なみえルーフ」柱



■ 住宅壁面ルーバー



■ 外部仕上げ表

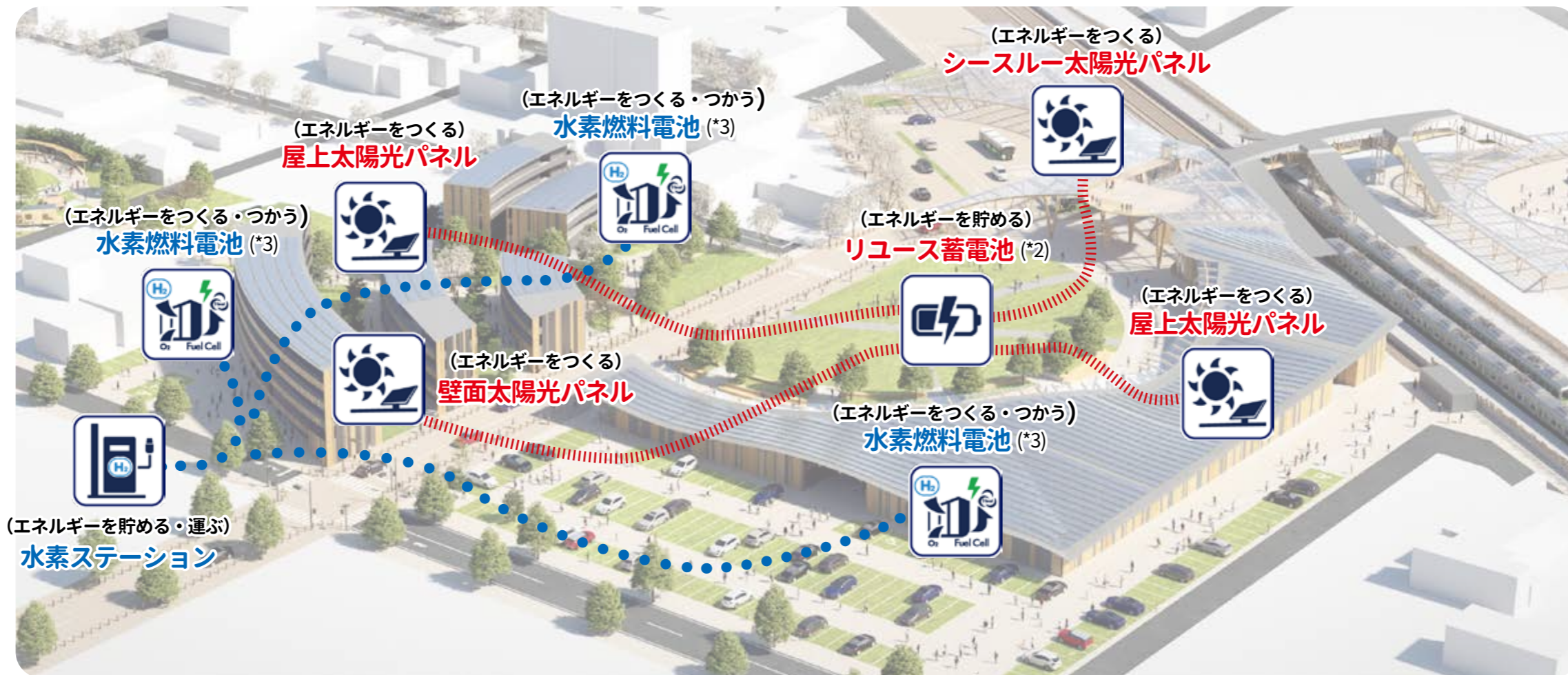
部位	仕上げ	法規	防火・耐火	
商業施設	屋根	ガルバリウム鋼板葺き ガラス屋根+透過型太陽光発電パネル	建築基準法 第35条2項	その他建築物
	外壁	木製 羽目板張り		
	軒裏 開口部	木製 野地板 木アルミ複合サッシ		
交流施設	屋根	ガルバリウム鋼板葺き ガラス屋根+透過型太陽光発電パネル	第35条2項	準耐火建築物
	外壁	木製 羽目板張り		
	軒裏	木製 野地板		
	開口部	木アルミ複合サッシ		
	外部てすり	スチール製 溶融亜鉛メッキリン酸仕上げ		
	階段 テラス	ウッドデッキ ウッドデッキ		
駅	屋根	ガルバリウム鋼板葺き ガラス屋根+透過型太陽光発電パネル	第35条2項	その他建築物
	外壁	木製 羽目板張り		
	開口部	木アルミ複合サッシ		
	外部てすり	スチール製 溶融亜鉛メッキリン酸仕上げ		
	階段	ウッドデッキ		
	テラス	ウッドデッキ		
自由通路	屋根	ガルバリウム鋼板葺き	(今後の協議)	
	外壁	ガラススチール カーテンウォール		
	外部てすり	スチール製 溶融亜鉛メッキリン酸仕上げ		
	階段	ウッドデッキ		
住宅	屋根	ガルバリウム鋼板葺き	建築基準法施行令 第129条の2の3	4,5F 共同住宅耐火建築物 3F 共同住宅準耐火建築物
	外壁	木製 羽目板張り		
	開口部	木アルミ複合サッシ		

■ 内部仕上げ表

部位	仕上げ	法規	防火・耐火
商業施設	天井	建築基準法 第22条	難燃
	壁		難燃
	床		難燃
交流施設	天井	第2条9号の3イ	難燃
	壁		難燃
	床		難燃
住宅	天井	第2条9号の2イ	不燃
	壁		不燃
	床		
	廊下		準不燃

エネルギーを使う町から、作り・集め・つなぐ町へ ～ RE100 のライフスタイルを発信する町

- 私たちで使うエネルギーは、私たちが作るエネルギーを。時間帯や天候によって足りない電力は、町内の再生可能エネルギーを活用します。
- 安全安心なエネルギーを必要なときに必要なだけ。電気を集め・貯め・使う。水素やリユース蓄電池を使い、未来のライフスタイルを目指します。(*1)
- 余ったエネルギーは、近隣地域や県内外の需要地へ。エネルギーを無駄にせず、社会全体で上手に使う。浪江町が社会をエネルギーでつなぎます。



*1 次世代ライフスタイル：RE100 のライフスタイルを実現するため、水素・太陽光発電・蓄電池・省エネなど、新しい技術やサービスを持ち寄り、住まう方々や浪江町に関わる人々との対話と連携を行いながら、様々なチャレンジを進め、世界に発信していきます。

*2 リユース蓄電池：電気自動車に搭載されるリチウムイオンバッテリー等を二次利用、蓄電池として利活用し、昼間に太陽光発電パネルで発電した余剰電力を蓄え、夜間や天候が悪い日などに電力使用するもの。

*3 水素燃料電池活用：水素燃料電池とは、水素と酸素の化学反応により発生した電気を取り出し、利用することができる装置。水素燃料電池により水素から発電した電気と、発電時に発生する熱を、家庭内や店舗内で活用するもの。

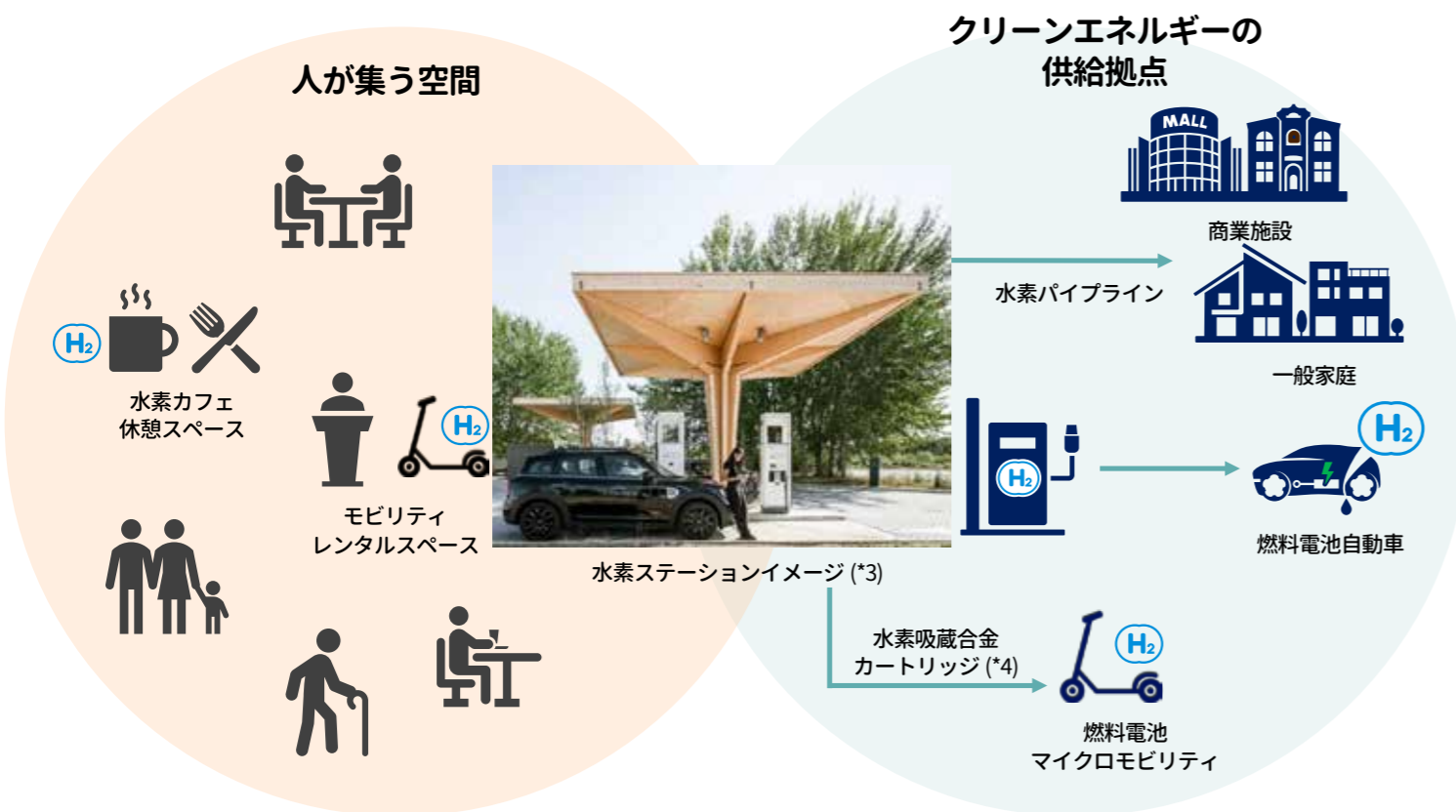
クリーンエネルギーと人のハブとしての水素ステーション

■ 水素利用イメージ

水素ステーションでは、燃料電池自動車(*1)や燃料電池マイクロモビリティ(*2)等に、水素を供給します。また、パイプラインなどで水素を運び、駅前エリア内の施設や設備(燃料電池)でも、水素を利用します。利用の際に、燃料電池から発生する熱エネルギーは、さまざまな用途として、効果的に活用していきます。

■ マルチ水素ステーション・コンセプト

エネルギー供給のハブでありながら、住民や観光客が気軽に立ち寄りたくなる空間を目指します。また、一部木材も活用した建築とすることで、周辺環境にも溶け込んだ新しい水素ステーションの形を生み出します。



*1&2：水素燃料電池によって発生した電気をエネルギー源として走る自動車やマイクロモビリティ
 *3： 写真はデンマークの電気自動車向けステーション (Ultra-fast charging station in Knudshoved, Denmark)
 *4： 着脱可能な水素を充填した小型の専用ボトル。定置式燃料電池やマイクロモビリティへの水素供給に活用

■ 水素供給イメージ

福島水素エネルギー研究フィールド (FH2R) で生産された水素を駅前の水素ステーションに蓄え、そこから各施設に設置する燃料電池や燃料電池自動車等に水素を供給します。



福島水素エネルギー研究フィールド (FH2R)

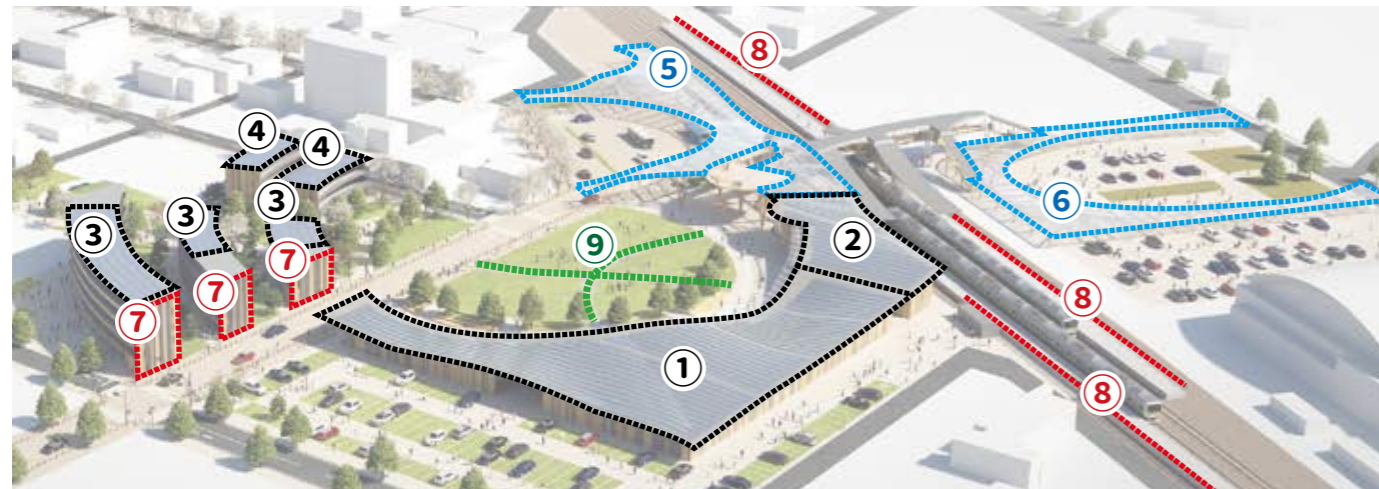


■ 施設に設置する燃料電池への水素供給方法の選択肢

- ・ 柱上パイプライン：電線のように、人の生活圏の上空に水素パイプラインを通す
- ・ 埋設パイプライン：地中もしくは側溝内に水素パイプラインを敷設する
- ・ 吸蔵合金：小型の専用ボトル（カートリッジ）に水素を充填して輸送する

屋根面と壁面に最適に配置された太陽光発電

計画区域内のさまざまな場所で、太陽光パネルの設置可能性を検討しました。屋根面や壁面といった場所に、それぞれに適した太陽光発電パネルを設置します。反射が少なく、**建物のデザインや木材の質感に合うような太陽光発電パネルを選択**します。



■ 太陽光発電 (PV) シミュレーション

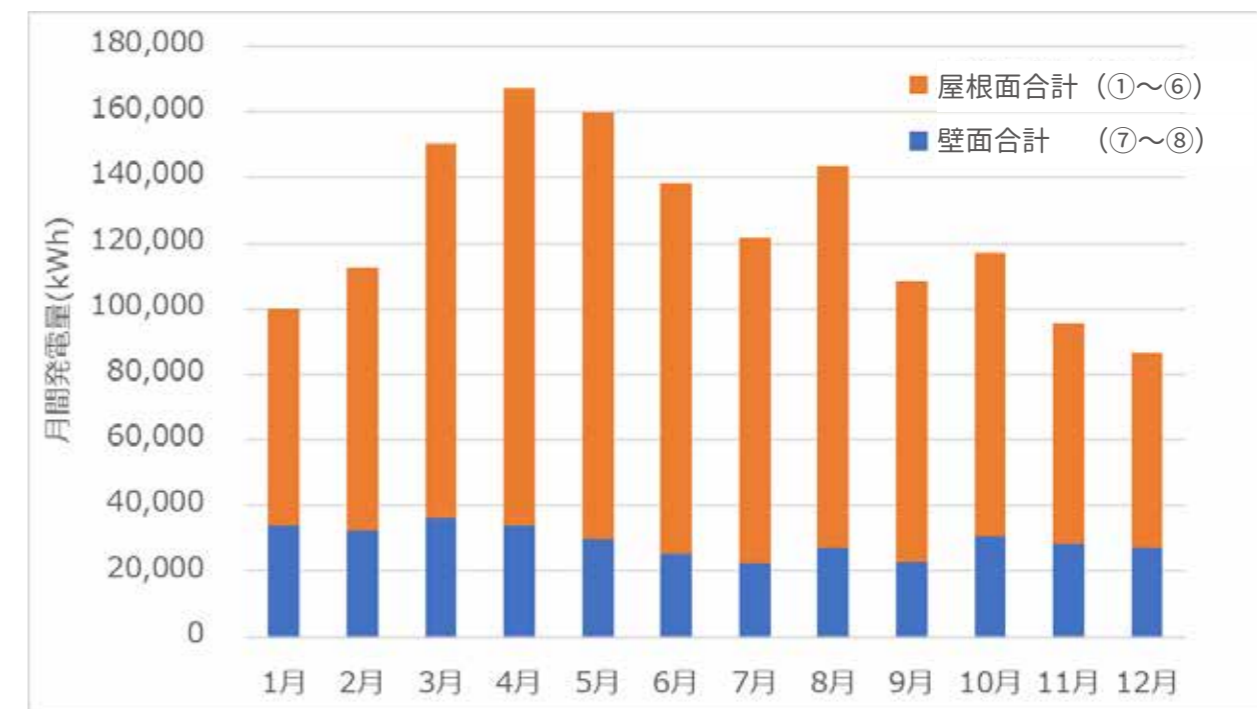
季節により発電量の変動が比較的大きい屋根面設置と、安定している壁面設置を組み合わせることで通年でなるべく均一な発電量を実現します。下記のような年間発電シミュレーションとなります。

(シミュレーションには芝生広場歩道面の舗装型太陽光発電パネルは含みません。)

PV システム導入検討箇所

住宅・商業施設・歩道シェルター屋根面、住宅壁面、浪江駅ホーム柵
(両面受光パネル、シースルー、ソリッド)

PV 導入検討容量 合計 **1,633.3 kW**



初年度期待発電量 **1,501,901 kWh/年**

導入期待効果※

累積発電量 (30年)	31,967,977kWh
電気料金削減額 (発電/30年)	669 百万円
CO ₂ 削減効果 (30年)	15,391 t

※ 発電量シミュレーションは JIS 法を用いて実施。気象データベースは METPV-11 の『福島県、浪江』のデータを使用。周囲建物などの影考慮無しの結果をもとに試算した。

※ 電気料金は『東北電力』の『高圧電力 B 6000V』を使用 (再生可能エネルギー発電促進賦課金 3.36 円/kWh を含む)。

※ CO₂ 削減係数は、太陽光発電協会表示ガイドライン (2021 年度版) に記載の結晶系シリコン太陽電池: 399.5g-CO₂/kWh を用いた。

※ 電気料金単価は、東北電力の『高圧電力 B 6000V』(再生可能エネルギー発電促進賦課金を含む) で計算。

※ 30 年間の累積は、太陽電池の年率低下を考慮した。

■ ①~④ 鋼板屋根面



両面受光太陽光発電パネル

屋根面に設置する両面受光タイプは屋根からの反射光でも発電します。従来製品より配線が隠蔽されていて、展望テラスなどから見てもケーブル類が見えない意匠性の高いパネルです。

■ ⑤~⑥ ガラス屋根面



シースルー太陽光発電パネル

バス・タクシー乗り場のシェルターなど、人が歩く場所の屋根についてはガラスと組み合わせたシースルータイプを用いて、発電と採光を両立します。

■ ⑦~⑧ 外壁面, 駅ホーム柵



ソリッド太陽光発電パネル

従来製品より反射が少なく広い面積でもまぶしくなりません。目立つ場所に置かれますが、色を茶系とする事で周囲の木の外装材と調和するデザインが可能です。

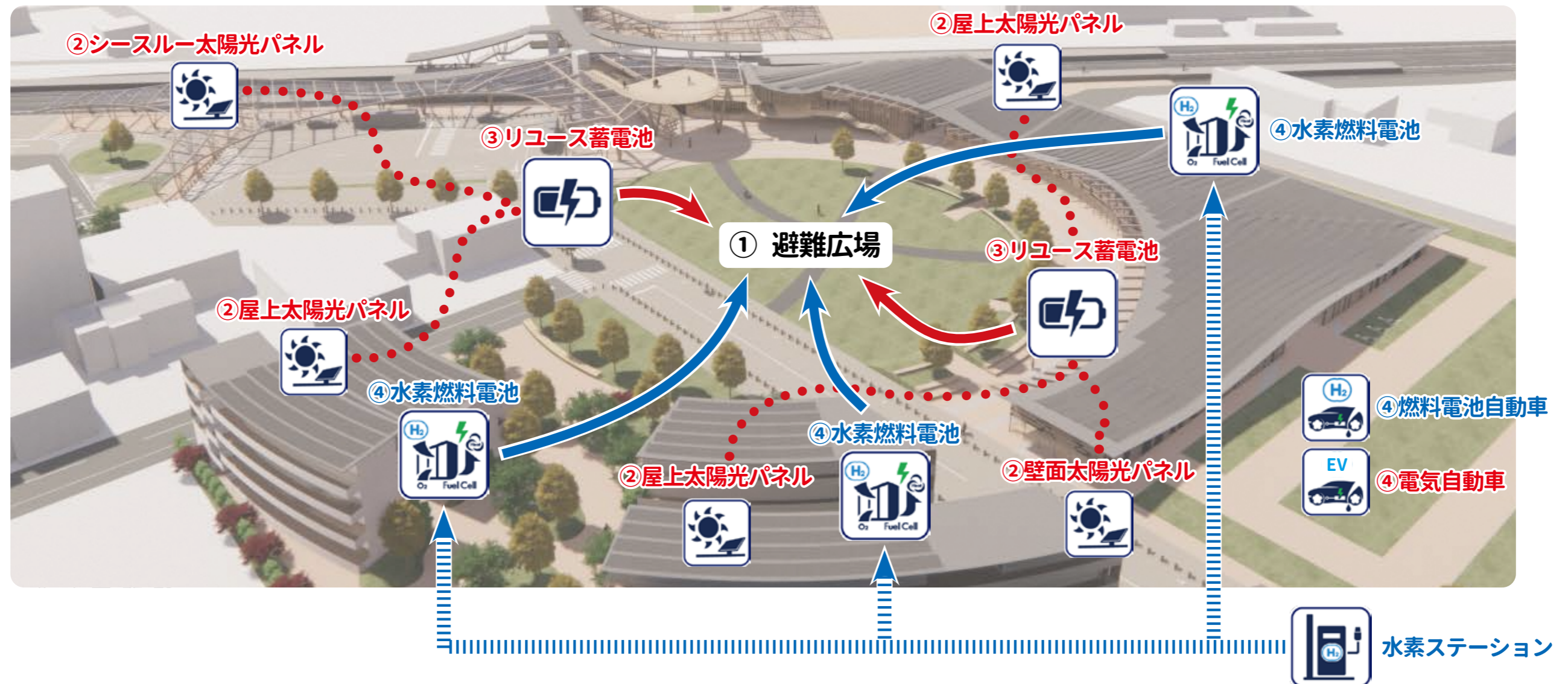
■ ⑨ 芝生広場歩道面



舗装型太陽光発電パネル

開発中の舗装型太陽光発電パネルの実証実験として、広場歩道面への設置を検討します。より身近な場所にパネルを置くことで環境意識の向上につながります。

エネルギーを作り・集め・つなぐ町は、災害時でも 安心な町



■ 停電時にも対応可能な防災施設

- ① 地震災害発生時には、大きな芝生広場が**避難場所**になります。
- ② 晴天時には、**太陽光パネル**の発電により災害時でも電力供給ができます。
- ③ 太陽光発電の余剰電力を**リユース蓄電池**に貯め、夜間の照明、通信等に利用します。
- ④ 水素の備蓄により、**水素燃料電池**や**燃料電池自動車**から電気が供給できます。また、**電気自動車**からの給電も可能です。

■ 緊急時に利用できる防災ファニチャ

芝生広場の周囲には、災害時に炊き出しなどに利用できる**かまどベンチ**や、**防災用品の備蓄が可能な防災ファニチャ**を設置します。ソーラー式の街灯には非常用電源がつきます。

■ 様々な利用者の安全性、利便性や快適性に配慮

高齢者や車イス、ベビーカーの移動に配慮した、バリアフリーのまちづくりを行います。車道と歩道の段差がないシームレス舗装は、見た目にもすっきりとした景観になります。

第3章 自然や文化のつながり

浪江町の魅力を集めた「連続する緑空間」

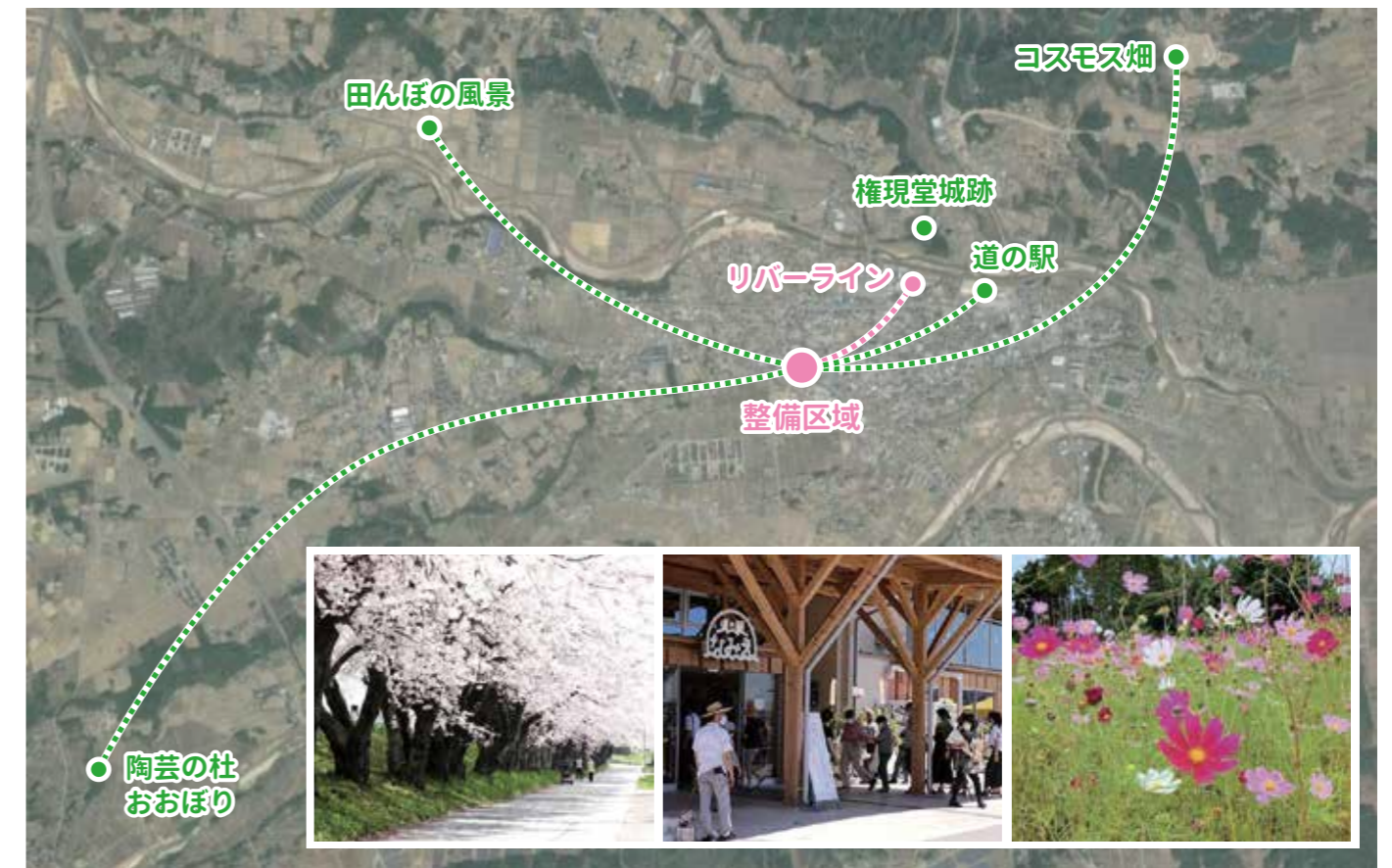
山から海へと続く街

浪江町の特徴でもある山と海が混在する、自然豊かな景色に包まれた街。その景色、土地の特徴を感じられる様な空間を創出します。

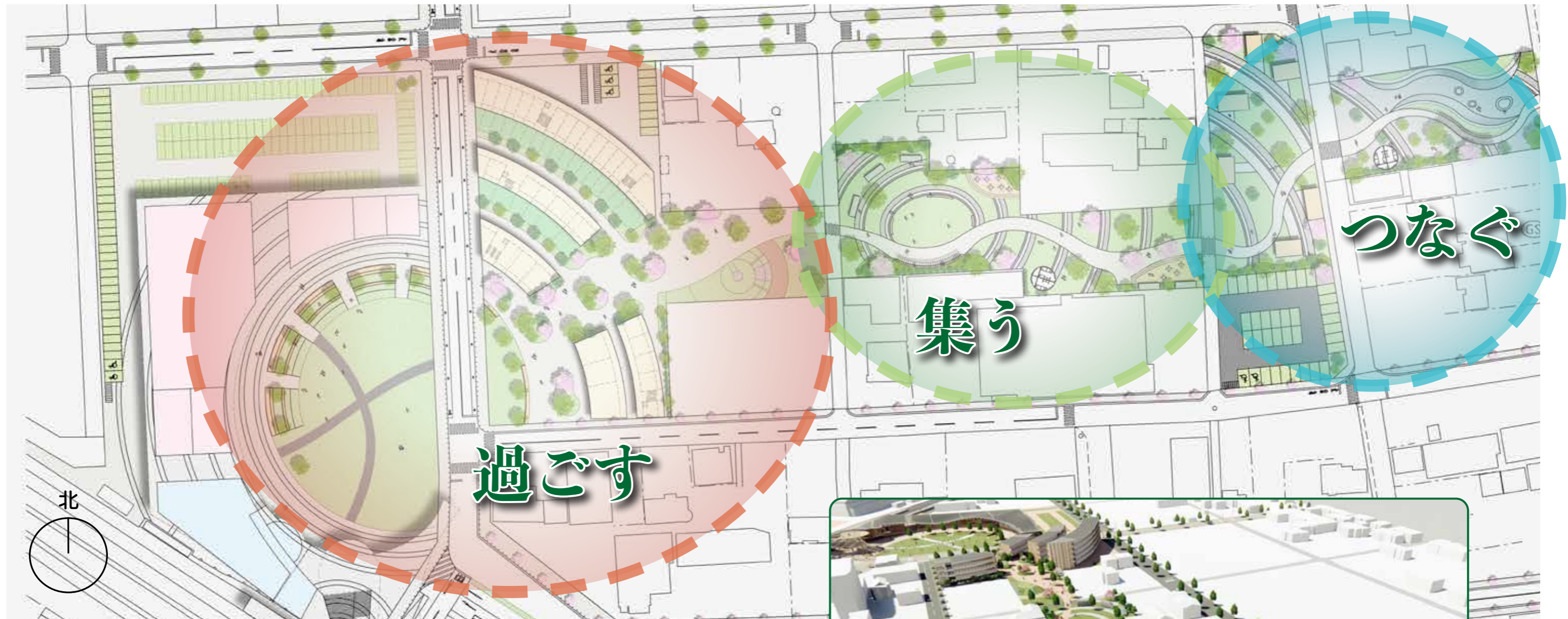


にぎわいへと繋がる街

カツラを植栽の中心とし、全体にカツラの回廊を計画していきます。新緑の時期に、駅から続く人のにぎわいが、道の駅、請戸川リバーラインの桜へと続き、他の季節でも、コスモス畑、田んぼの風景、陶芸の杜おおぼり、権現堂城跡など、浪江町全体へと人の流れが広がる拠点となる様に計画していきます。



人が過ぎ、人が集い、人がつながる



駅前から新町通りまで

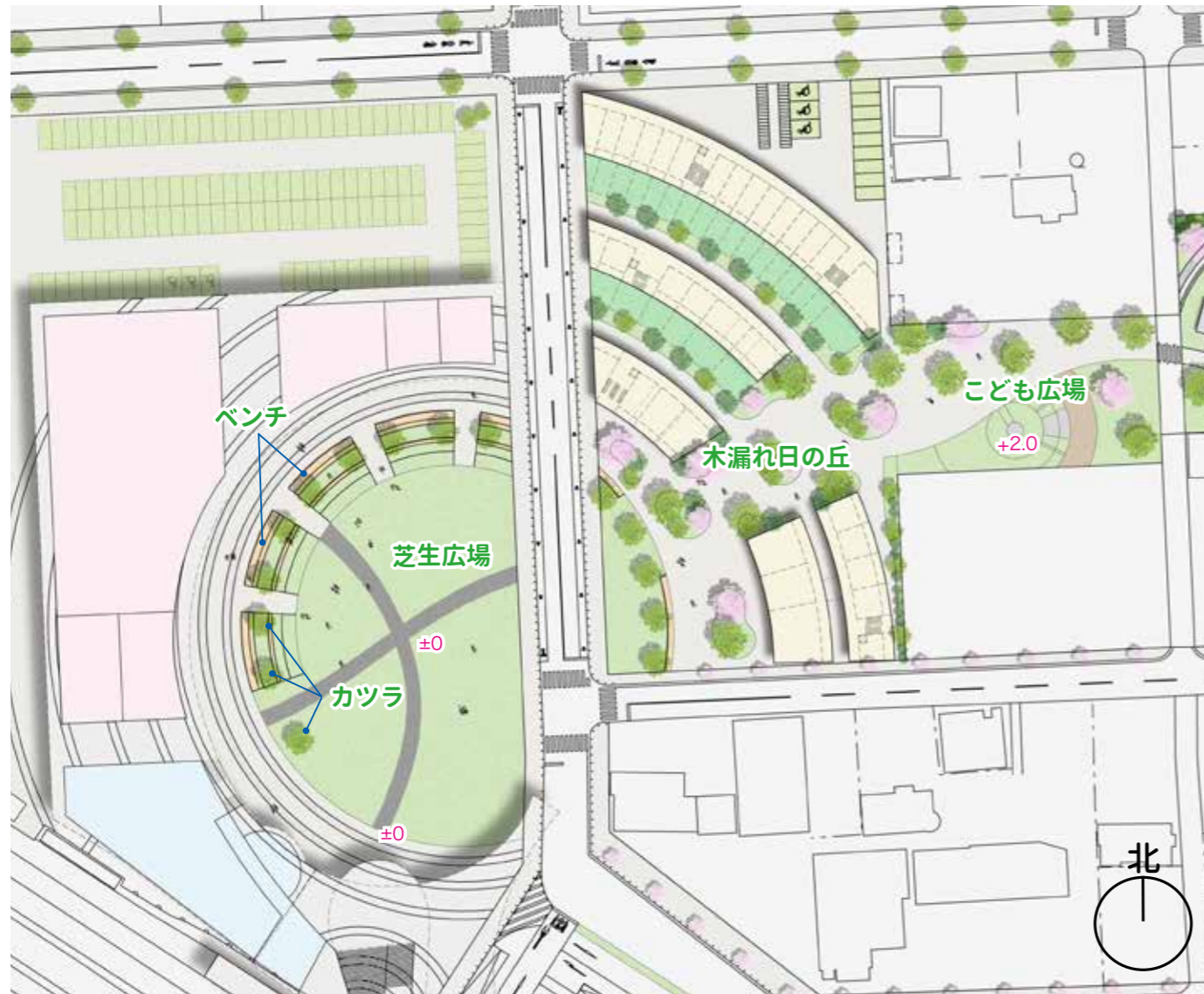
連続する緑空間を3つのゾーンに分けました。

「過ぎ」・・・浪江に暮らす人、浪江を訪れた人が、ゆったりとした時を過ごします。

「集う」・・・移動式店舗が並ぶ広場と明るく居心地の良いテラスに人々が集います。

「つなぐ」・・・浪江駅周辺のにぎわいが新町通りへ、さらにその先へとつながります。

過ごす～生活に寄り添う空間



「芝生広場」

駅前には広大な芝生広場を整備し、それを取り囲むようにメインツリーのカツラと木製ベンチが並びます。フラットで大きな広場では、さまざまなイベントが開催できます。

「木漏れ日の丘」

広大な広場の先に、四季を彩る木々のゲートが見えます。小高い緑地に木漏れ日が射し、ゆるやかなカーブの散歩道が変化のある景色をつくれます。

「こども広場」

居住エリアの隣にはこどもの遊び場を計画します。特徴的な立体遊具を置いてこどもたちが活発に遊べる児童公園をつくれます。

■ 芝生広場



■ 木漏れ日の丘

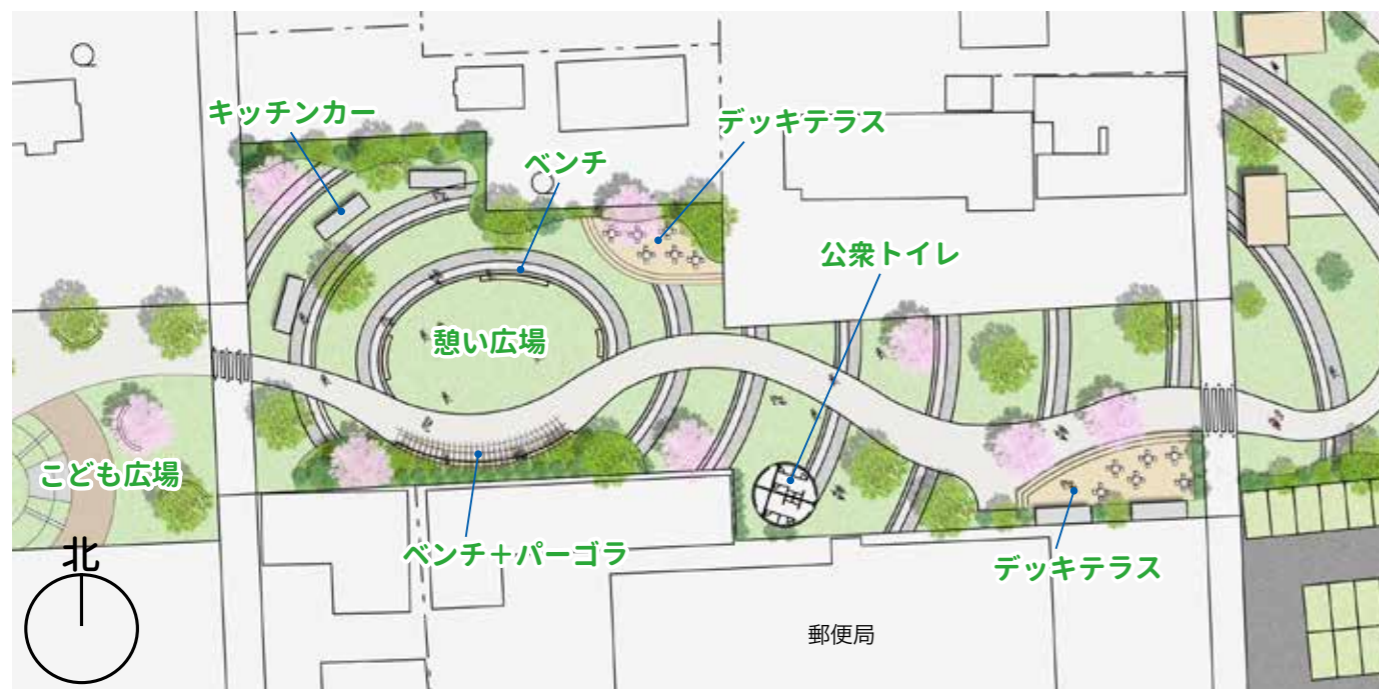


■ こども広場



集う～居心地のよい憩いの場

■ 憩い広場



「憩い広場」

木漏れ日の丘を抜け、こどもたちが遊ぶ広場の先には明るい芝生の空間が広がります。憩い広場を中心に人々が集い、芝生に描かれた波紋の広がりによって導かれて歩みが進んでいきます。

「デッキテラス」

県産木材を使って、居心地の良いウッドデッキのテラスをつくります。

「水素キッチンカー」

排気ガスを出さない水素キッチンカーやトレーラータイプの移動式店舗が集まります。

「ストリートファニチャ」

木のぬくもりを感じ、広場の景色と調和するストリートファニチャを配置します。

つなぐ～新しい世界、行動が広がる船出広場



「商業施設 (サテライト)」

新町通りへ、にぎわいがつながる個別店舗型の商業施設を配置します。

「アーバンスポーツパーク」

スケボー広場などのスポーツ広場をつくり、家族づれや若者たちの交流を促します。

「シェアサイクル」

駅から緑空間を歩いてきたあとは、シェアサイクルでさらに町内を広く見てまわれます。

「EV 充電スポット」

駐車場には、電気自動車のための充電スポットが数多く設置されます。

■ 商業施設 (サテライト)

緑空間の一部には、ガラス張りでにぎわいが溢れ出すような「商業施設 (サテライト)」を設置します。視界をさえぎらない位置に、ランダムな向きで配置することで、ショップ内のにぎわいがどこからでも感じられるようになります。将来的には、駅前から新町通りへ、にぎわいをつなぐ中継点としての役割を担います。



■ アーバンスポーツパーク

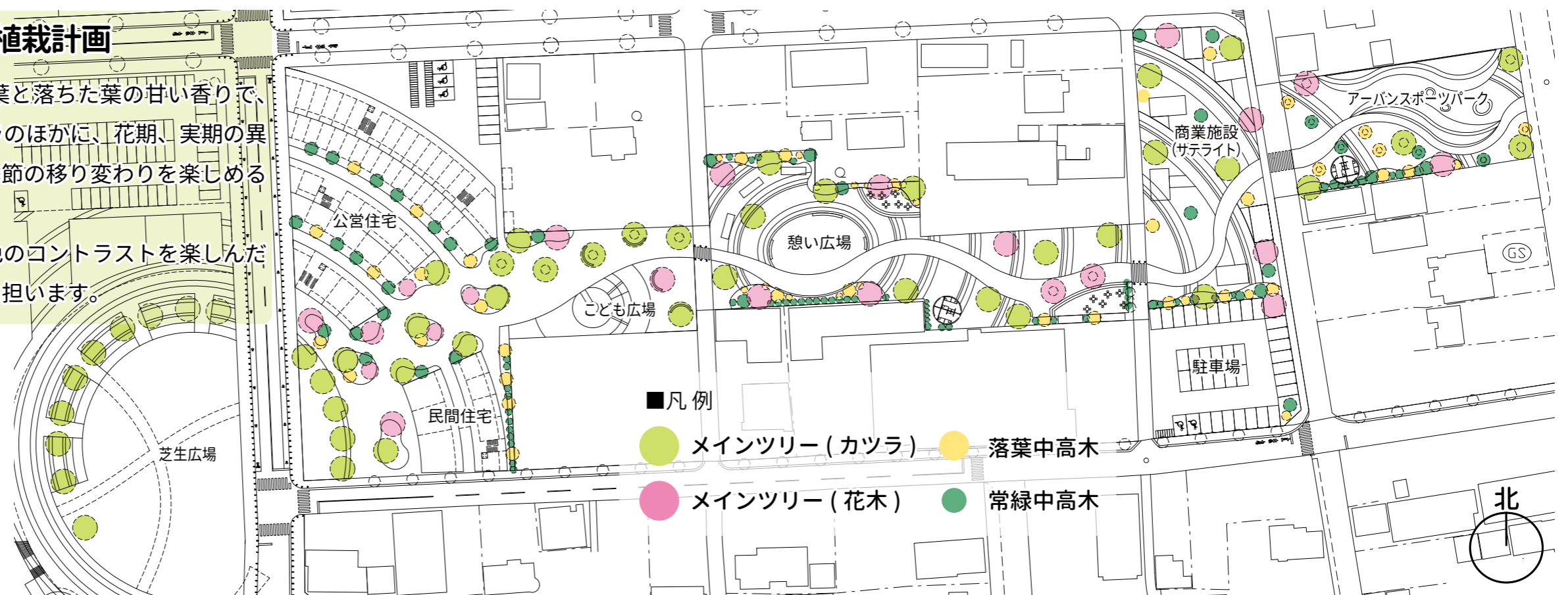


四季を彩り、木漏れ日をもたらす木々

彩りの変化で季節を感じる植栽計画

メインツリーの**カツラ**は、秋の黄葉と落ちた葉の甘い香りで、季節を感じることができます。カツラのほかに、花期、実期の異なる樹木を選定して、1年を通じて季節の移り変わりを楽しめる植栽計画としました。

落葉樹の合間に**常緑樹**を配して葉色のコントラストを楽しんだり、隣地との境界では目隠しの役割も担います。



● **メインツリー (カツラ)**



● **メインツリー (花木)**



ソメイヨシノ
花期 3～4月



ジンダイアケボノ
花期：3～4月

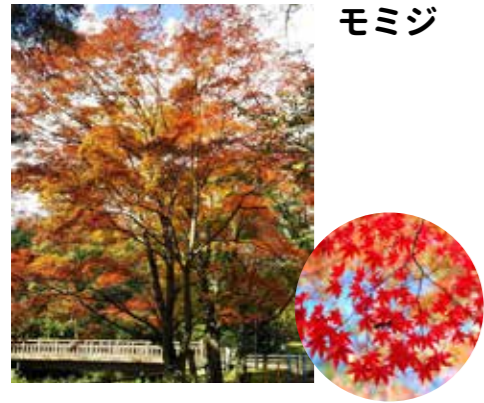


モクレン
花期 3～4月



サルスベリ
花期：7～9月

● 落葉中高木



モミジ



アオハダ
実期：9～10月



エゴノキ
花期：5～6月



ヒメシャラ
花期：6～7月



ナンキンハゼ



ジュンベリー
花期：3～4月
実期：6月



ハナミズキ
花期：4～5月



リョウブ
花期：7～9月

● 常緑中高木



ヤマモモ



クロガネモチ
実期：11～12月



ホソバタイサンボク
花期 5～6月



アカガシ
実期：10～11月



ヒメユズリハ



タブノキ



ツバキ
花期：12～3月

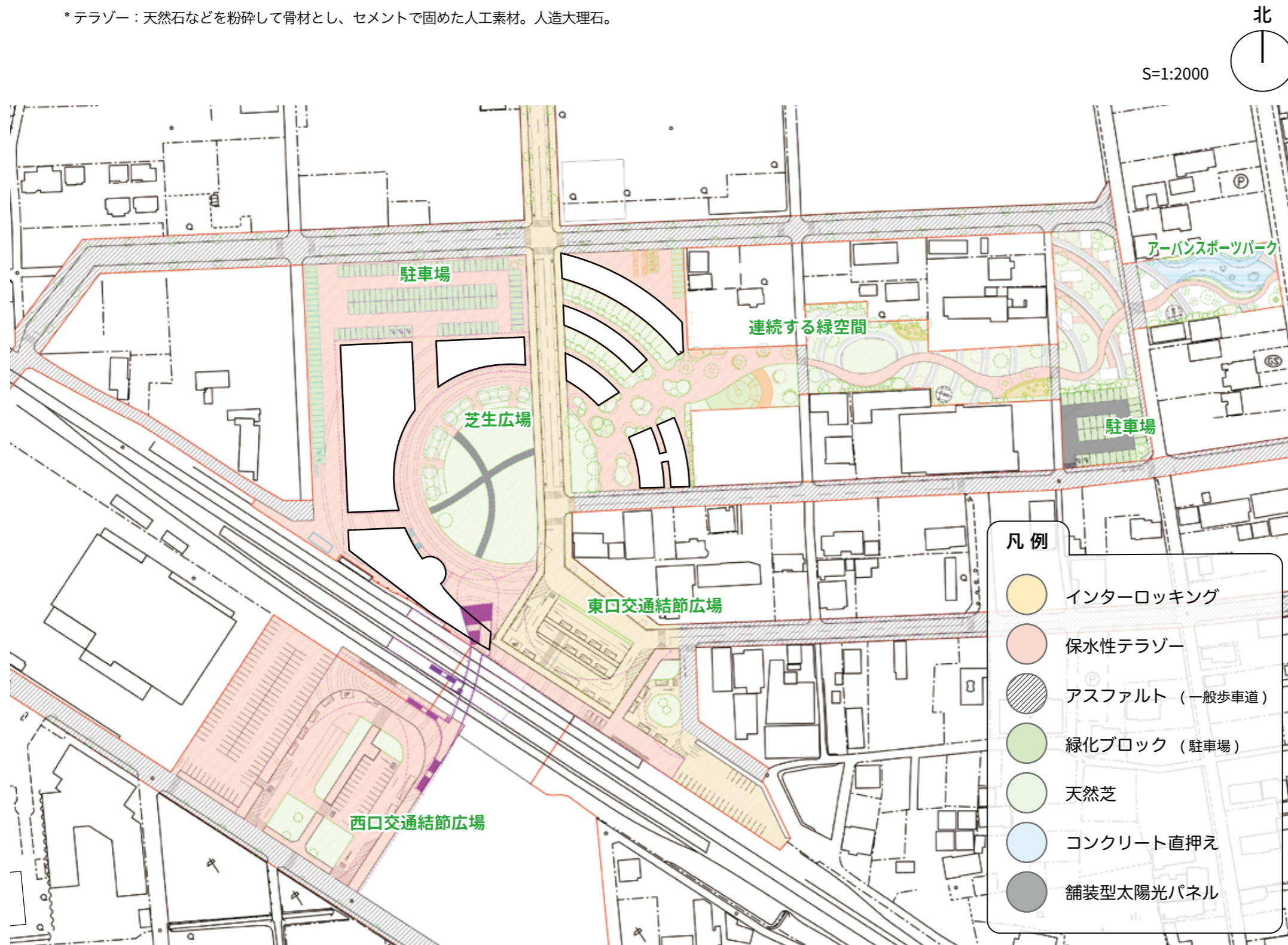


サザンカ
花期：11～2月

街区の顔となるような統一性のある舗装材

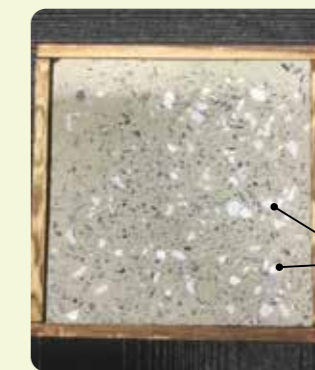
メイン道路と東口交通結節のロータリー部分は、インターロッキングブロックを用いた石畳風の舗装とし、特徴的な街区の顔として演出します。それ以外の車道と歩道はアスファルトを用います。人が多く訪れる広場まわりや園路は、保水性テラゾー*舗装とします。

*テラゾー：天然石などを粉砕して骨材とし、セメントで固めた人工素材。人造大理石。



保水性テラゾー舗装

芝生広場まわりや緑空間の園路といった目に触れやすい部分に、震災で廃材となってしまった瓦や大堀相馬焼をアップサイクルした保水性テラゾー舗装を用います。



■ テラゾー サンプル
大堀相馬焼の破片を骨材として練り込んで試作したサンプル。

大堀相馬焼の破片



■ 塗布式薄層舗装
瓦の廃材などを骨材として、アスファルトやコンクリート舗装の上に吹き付けるタイプの舗装材。施工が容易で、路面の滑り止め効果が得られます。左の写真は、大堀相馬焼の破片を骨材としたサンプル。(全面吹き)



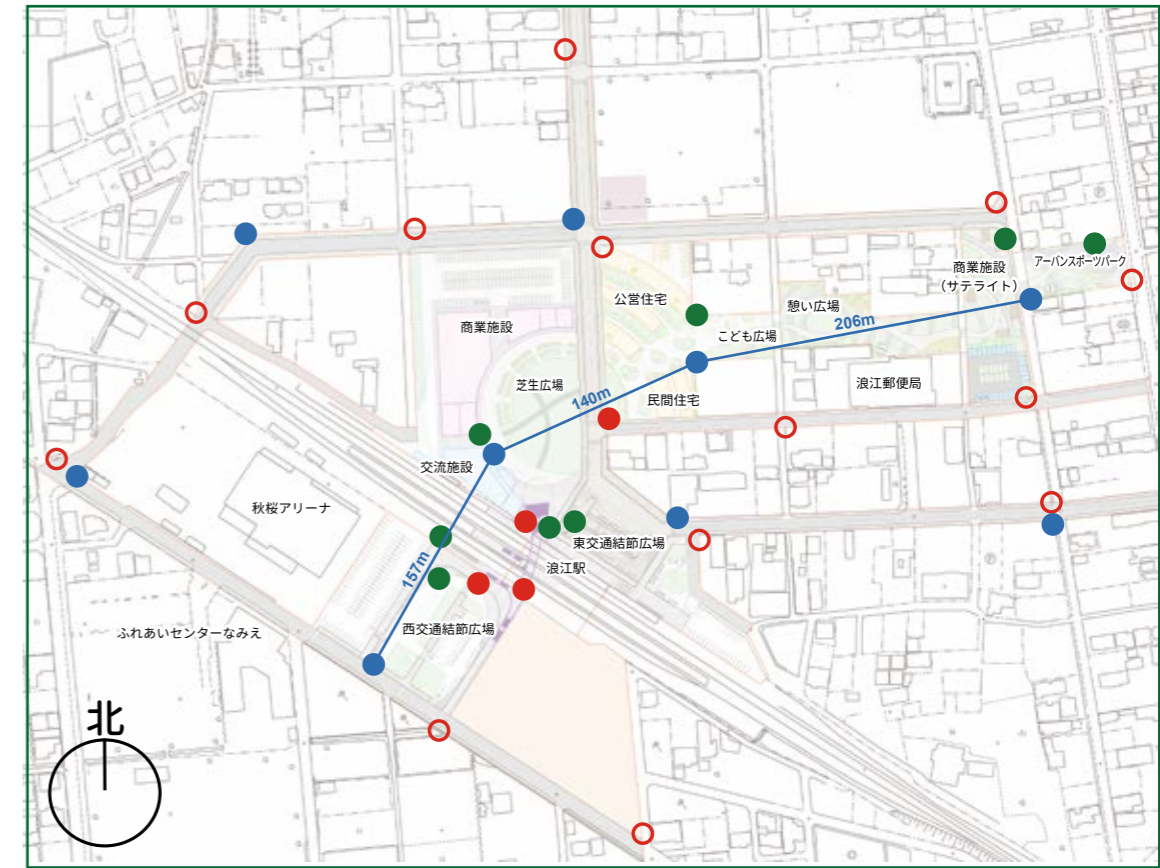
上と同じサンプルを一部に玉吹きしたもの。

写真提供：SDGs 建築資材 Eco Kawara (3枚とも)

誰もがわかりやすく浪江らしい公共サイン計画

誰もが容易に目にすることのできる位置に設置します。

2色の木材を組み合わせ、「なみ」の表情を表現します。素材には、地球にやさしいサステイナブルな木材を用います。



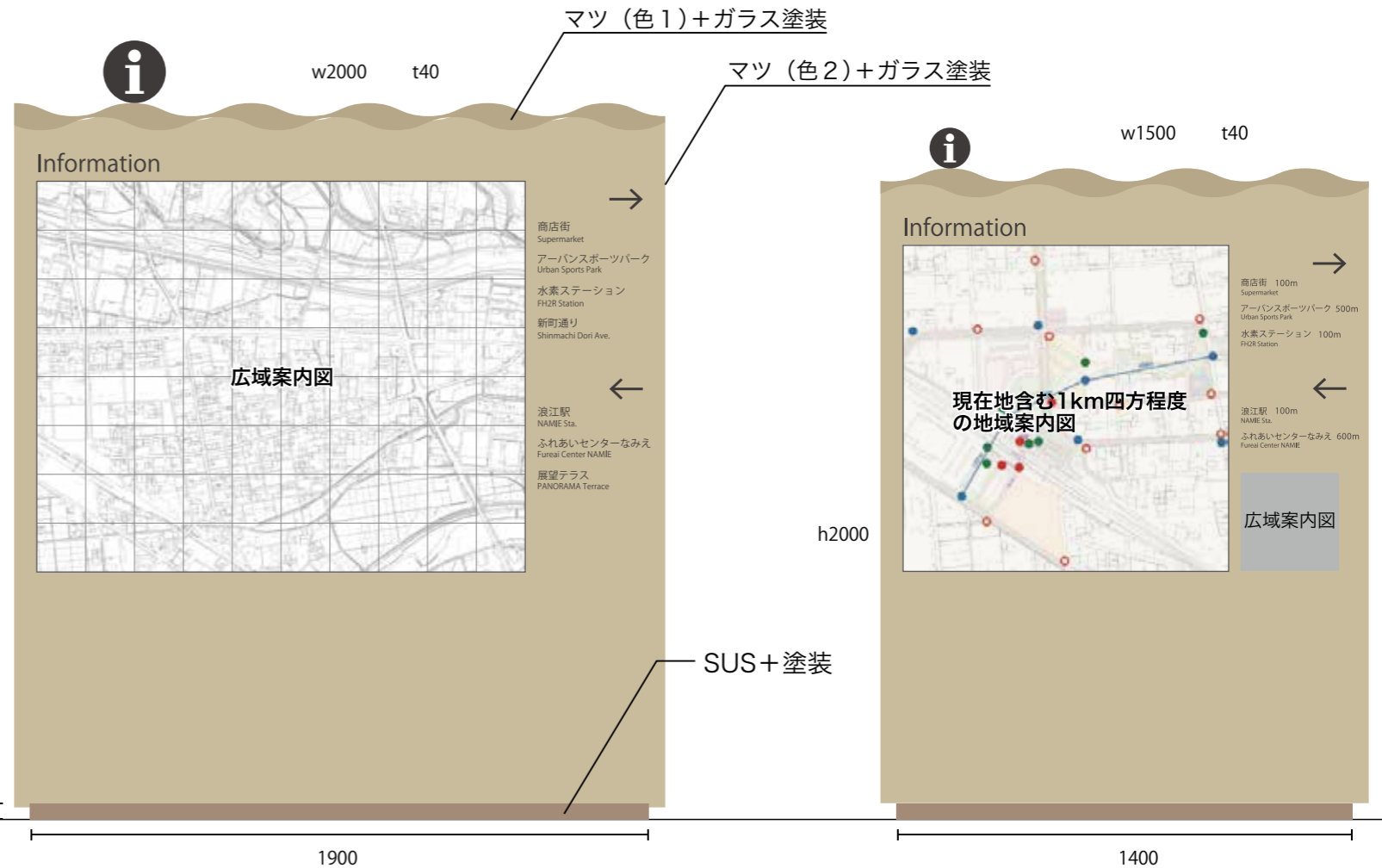
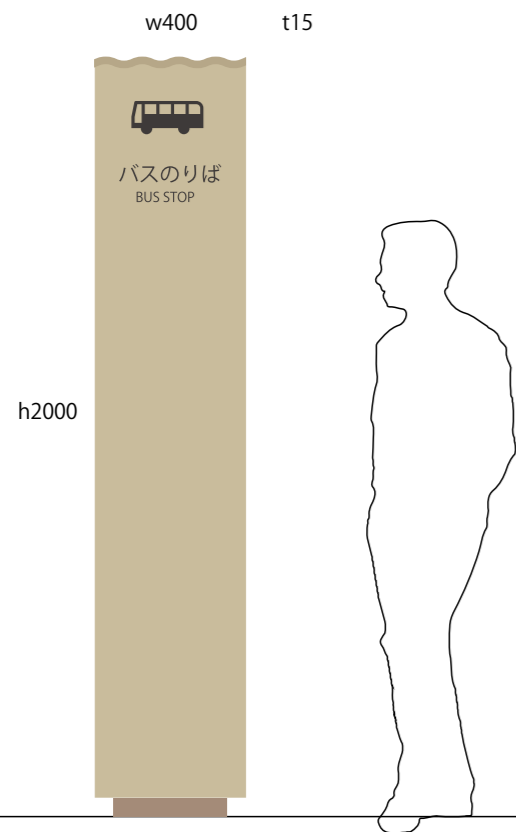
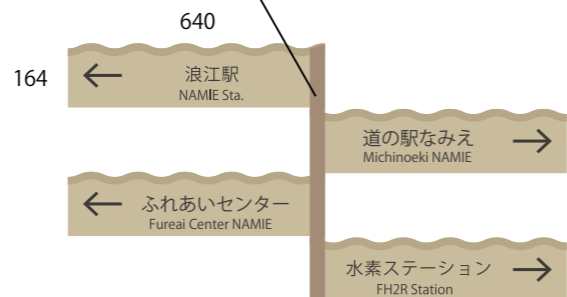
凡例

● 総合案内サイン	4ヶ所
○ 地域サイン	13ヶ所
● 記名サイン	8ヶ所
● 誘導サイン	9ヶ所

誘導サイン、地域サイン、総合案内サインは、基本的に100～250mおきに配置し、加えて交差点に設置します。



ポール部分：SUS+塗装（塗装色はマツ色より決定）
矢羽根部分：マツ+ガラス塗装



● 記名サイン	S=1/20	ヶ所
---------	--------	----

● 誘導サイン	S=1/20	ヶ所
---------	--------	----

● 総合案内サイン	S=1/20	ヶ所
-----------	--------	----

○ 地域サイン	S=1/20	ヶ所
---------	--------	----

緑空間を彩るストリートファニチャー

皮付き無垢材を用いたストリートファニチャーを計画地全体に配置し、統一感のある街並みとします。

液体ガラス塗装を含浸させることで、木本来の自然な表情は維持しながら、耐久性やメンテナンス性を向上させます。



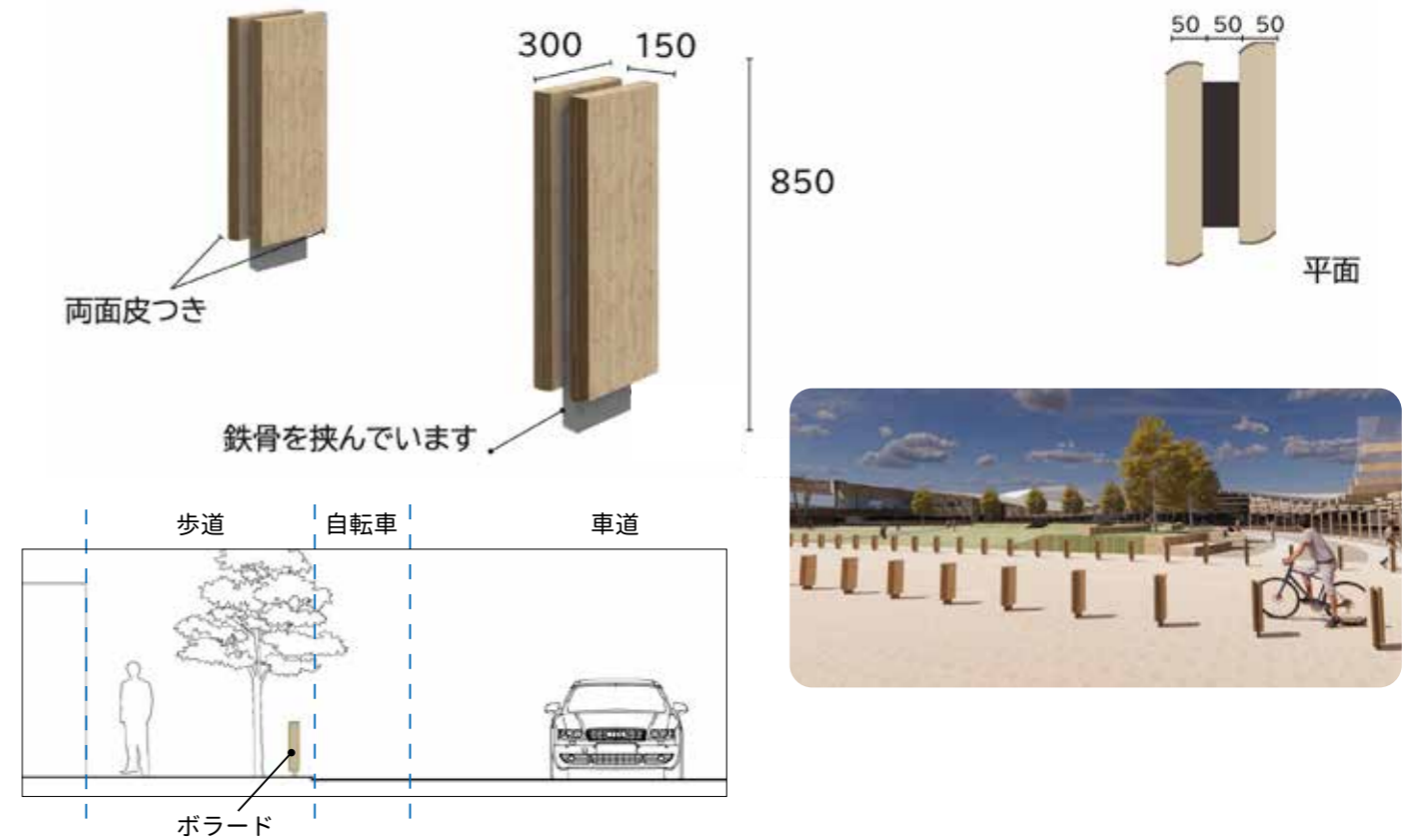
■ パーゴラ、ベンチ

憩い広場とアーバンスポーツパークに、夏季の強い日差しを軽減させるパーゴラを配置します。パーゴラの下にはベンチが併設され思い思いに休憩することができます。歩道を邪魔しないように片側柱とし、園路側に大きく開いた使いやすいパーゴラとします。



■ ボラード

中央の鉄骨支柱の両側を皮付きの木でサンドイッチして、十分な強度をもちながらも**自然な表情のボラード**とします。車道～歩道間に1.5mピッチで設置して歩行者の安全を確保することで車道と歩道の段差を最小限とし、すっきりとした道路景観を実現します。



■ 街 灯

無機質な芯材にスギの皮付き木材をあしらい、**樹木のような温かみのある街灯**とします。木材をまとった街灯は風景に溶けこみ、人工物でありながら自然豊かな空間を演出します。



周辺環境と調和したモニュメント

モニュメントやストリートファニチャは、次世代へつなぐ象徴として、若手クリエイターの参画を促すコンペ形式でデザインを進めていく事も可能です。

駅前のフォトスポット、待合せ場所となるシンボリックなモニュメントや、連続する緑空間に点在しランドマークとなる特徴的なモニュメントを設置します。



上のパースは、浪江駅の駅舎前に置くモニュメントの一例です。

樹形のモニュメントで、子供が登らないように下側はすぼまって上側がシンボリックに大きく開いたデザインです。足元の視線は抜けつつも、訪れた人に高揚感を与える形状としています。木を積み重ねたデザインとすることで、建物全体と調和しながらも視認性の高いモニュメントとなります。

■校章をモニュメントに

震災前に浪江町内にあった9つの町立小中学校は廃校となりましたが、校章や石像、石碑などが保管されています。学校を象徴するそれらの品を使ったモニュメントを制作して連続する緑空間に置き、卒業生や地域の人たちの思い出をいつでも見にこられる形にして残しておきたいと考えています。



校舎解体後に保管されている校章
(左：幾世橋小学校、右：大堀小学校)

(資料) 駅周辺整備計画スケジュール案

※本スケジュールは想定であり、今後変更となる可能性があります。

年度	2021 令和 3	2022 令和 4	2023 令和 5	2024 令和 6	2025 令和 7	2026 令和 8
 <p>基盤整備</p>	都市計画決定 事業認可 ▼ 調査・基本設計 ▼ デザイン 基本計画	用地取得 実施設計		工事		
 <p>交流施設</p>	デザイン 基本計画	条件整理	基本設計	実施設計	工事	
 <p>東西自由通路・駅舎</p>	基礎調査 ▼ デザイン 基本計画	条件整理	基本設計	実施設計	工事	
 <p>商業施設</p>	デザイン 基本計画	条件整理	基本設計	実施設計	工事	
 <p>民間住宅</p>	デザイン 基本計画	住宅事業者との協議	基本設計	実施設計	工事	
 <p>公営住宅</p>	デザイン 基本計画	基本設計	実施設計	工事		

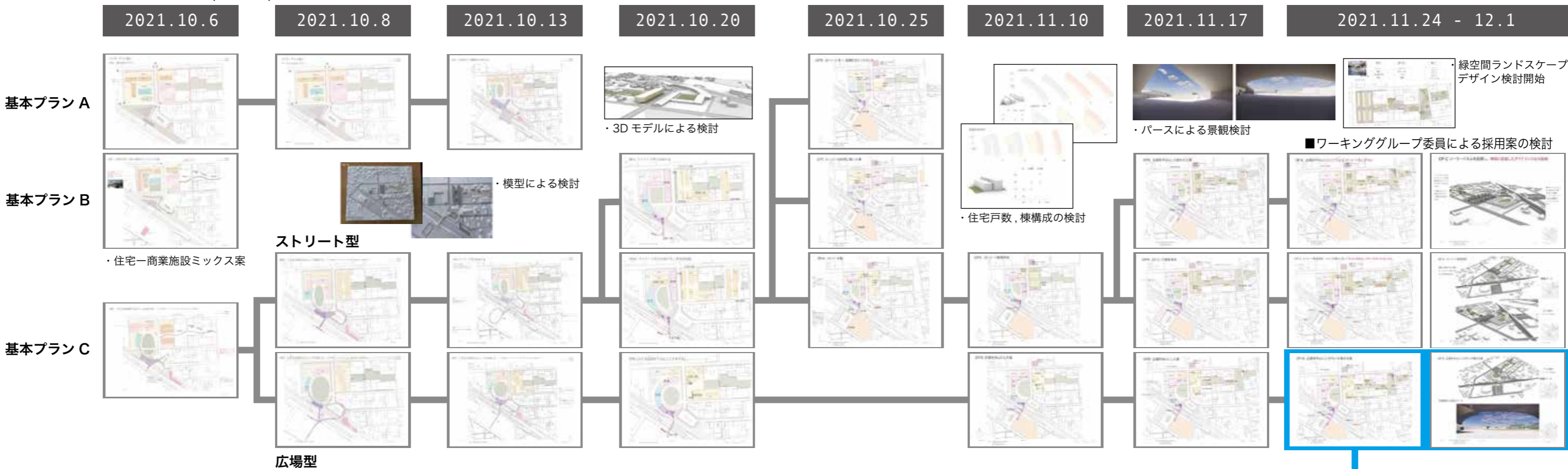
(資料) グランドデザイン検討の経緯

- 2021.9.5 デザイン連携協定締結 (Design Agreement)
- 2021.10.14 空間デザイン基本計画契約
- 2021.11.1 RE100 とデザイン講義 (東大先端研 杉山教授)
- 2021.11.17 太陽光パネル舗装レクチャー (MIRAI LAB)
- 2021.11.17 モビリティサービスレクチャー (日産自動車)
- 2021.11.24 交流施設事例ヒアリング (CCC 蔦屋書店)
- 2021.11.25 モビリティサービスレクチャー (トヨタ自動車)
- 2021.9.29 事例調査

複数案の検討

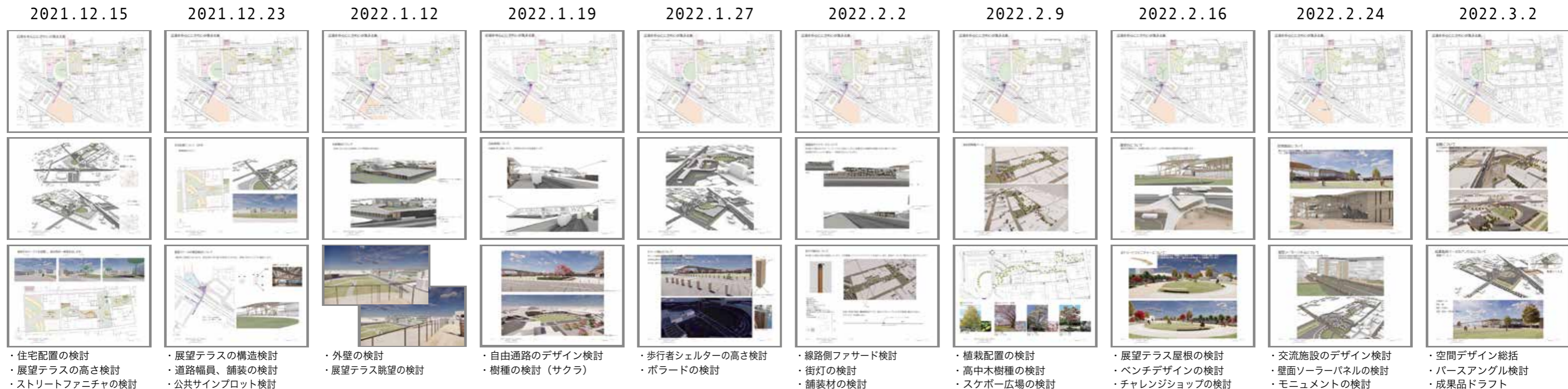
■連携協定定例会 (DA 浪江)→

■基本計画マスタープラン協議→



- 2021.12.15 基本計画案決定
- 2021.12.23 公安協議 (双葉警察署浪江分署)
- 2022.2.15 集成材工場ヒアリング・意見交換 (FLAM)
- 2022.2.16 大堀相馬焼被災品利用検討・舗装材試作
- 2022.3.14 基本計画成果品納品

広場型プランの検討



浪江駅周辺ランドデザイン基本計画
The Grand Design for Landscape Architecture around Namie Station

2022（令和4）年3月発行
2022（令和4）年8月改訂

発行
福島県 浪江町

ランドデザイン
隈研吾建築都市設計事務所
伊東順二事務所
住友商事株式会社

← 浪江駅
NAMIE Sta.

砂の遊び場
Suna Park →

← ふれあいげんきパーク
Fureai Genki Park

水素ステーション
FH2R Station →



バスのりば
BUS STOP

